

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570313627		
法人名	有限会社わかば会		
事業所名	グループホーム きらら浅舞		
所在地	秋田県横手市平鹿町浅舞字道川南77-7		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「なじみのある地域社会に包まれながら明るい笑顔で、はつらつと自分らしく安心して暮らすことにお役に立ちます」の理念のもと私たち職員は、入居者一人ひとりのこれまでの生活歴を尊重し大切にしながら穏やかな生活を送っていただけるよう支援しています。家族、親戚、友人、地域の方、いつでも気軽に立ち寄り、入居者の方々がなじみの関係を継続していけるよう家庭的な雰囲気や大切にしながら交流の支援を行っています。個々の経験や生活習慣の中から得意な分野での力を発揮できるように場面の設定にも気配りし、役割や楽しみごとなど生活に張りのある支援を継続していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	平成31年3月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居前の家族や馴染みの関係性を継続しつつ、地域住民との交流から新たな馴染み関係をつくることで地域近隣の協力を得て、利用者が安心して暮らせるように職員の支援している状況が伺えます。また、事業所の理念を毎朝のミーティング時に唱和し、職員それぞれが支援の意識付けを図る、支援を再確認する意味合いも込めて行っていますが、今後も継続して唱和する意向であれば現状にマッチした理念か、時には振り返ることも必要かと思えます。職員の多様な日々の経験や習得した支援技術やコミュニケーション能力などを日々の支援で活かし合っており職員の協力体制や連携ができていますと感じました。また、職員が利用者の人となりに触れ合うことで、業務にやりがいを見出しスキルアップやキャリアを積み資格取得へと前向きな姿勢で支援していると感じました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者と 管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・ホールの見える場所に理念を掲げ職員で共有し意識を高めている。	事業所理念とグループホームの倫理要綱10項から毎日1～2項程を順次職員で唱和し、意識を高め利用者への支援に努めているが、理念が徐々に職員の意識や現状に沿っているのかと思いが感じられた。	理念の唱和を日課として継続しているも、現状に沿った理念が振り返り、具現化される理念の共有、意識の更なる向上に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	この地域では野菜や果物作りが盛んな為、時期には心がけて購入しており、又、雪の時期には「大変だな」と声をかけて下さる方、手を貸して下さる方も多い。	冬期間には雪対策などに関し近隣住民より、アドバイスをや協力を得ながら地域での暮らしが継続できているが、冬季は職員が主体の交流となっている。	近隣地域住民を施設内に招く(お茶会)など、年間を通じ利用者主体の交流の機会を検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域 とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 伝え、地域貢献している	運営推進会議や避難訓練等を通じて、認知症の方をどのように支援すればいいか理解してもらったり、地域から孤立しないで地域の方々と多く触れ合う機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より地域包括支援センターの方にも参加頂いている。活発な意見交換をし多くの声によって事業所の運営に反映しサービス向上を目指している。	2か月に1回定期的に開催しており、参加できない家族からは、面会時に報告や意見の聞き取りを行っている。また今後は地区民生委員、保健師、わかば会有料老人ホーム等の出席依頼など検討し、サービス向上に活かせる会議を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月利用者の身体状況や生活・イベントの様子などをまとめた報告書を地域局に提出している。また、運営推進会議に地域包括支援センターに出席して頂き、より活発な意見交換を行い連携を図っている。	運営推進会議へ毎回の出席や報告等で連携を図っており、利用者や家族の課題として相談されたこと等を、担当職員の窓口と一緒に解決や負担軽減となるような支援を目指している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に委員会を開催して職員が身体拘束排除マニュアルを繰り返し勉強している。身体拘束具のみならず言葉による拘束にも配慮しケアに取り組んでいる。	利用者の現状では身体拘束の必要性はないが、利用者自身の状態から伺えるリスクの踏まえ、家族への説明の必要も捉えながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、定期的に委員会を開催して勉強している。虐待につながるような言葉遣いや行動には細心の注意を払い、見過ごすことのないよう虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について管理者が研修で学んだことを職員に伝え知識の拡大を図っているが、内容も難しかったりするためもっと学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族が不安だったり、要望があれば事前に施設見学をしていただき疑問に思うことなど、十分納得のいくまで説明し情報提供している。理解や納得した上で契約に臨んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が面会に来られた際は、施設に対しての要望・意見など気兼ねなく話して頂いており運営に反映させている。入居者にも気軽に職員に話してもらえよう努めている。	家族からは、個別計画を説明・同意を得る機会等を活かし、利用者からは、日々の寄り添いや介助の中で思いなど訊き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やミーティング時間を利用して職員のさまざまな提案や意見交換を活発に行っている。申し送りだけでなく、検討結果を記録している。	勤務交代時の申し送りの内容からも、運営に関する事案などを反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力・実績・勤務態度に応じて、昇給や資格手当・賞与などがある。代表者は職員に対し、同業他社より誇りの持てる職場にしたいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自ら受講したい研修には参加できるよう支援している。また、職員に技術に応じ事業所より受講を勧めることもある。事業所内では系列施設間の職場で研修を行うこともあり、自施設のケア向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム情報交換会や南部の情報交換会の研修に積極的に参加している。お互いの問題点などを話し合いサービスの質の向上を目指して取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に必要な支援は何かを入居前に本人や家族・介護支援専門員から情報収集に努めている。不安を解消するため利用者が環境・職員・他利用者とゆっくりと時間をかけて傾聴し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や見学時などに要望や心配事などないか入居前から情報収集し入居時の対応に備えておく。入居後には不定的ではあるが家族に利用者の様子を連絡したり、月初めには通信を発行し郵送している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に尊厳をもった態度で接する様に心がけている。年配の方の知識や意見を尊重しながら、また、若い人たちの考え方も聞いてもらいながらの関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が訪問された際は、利用者の様子など伝えながらその方を支えていく関係を築いている。毎月の通信では利用者の身体状況や生活状況を伝え把握できるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や兄弟など訪問された際には、気兼ねなくお話しできるよう利用者の部屋に案内しゆっくり過ごしていただくよう環境づくりに努めている。また利用者から連絡を取って欲しいとの依頼があった際は電話をつなげている。	面会者は利用者の居室でゆっくり歓談したり、家族のお誘いでは墓参などもできている。さらら通信も定期的に家族へ近況報告をとして送り、観て知ってもらうことで関係性が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳が遠い方も多く、利用者同士の会話が難しかったりする時は職員が利用者の中に入り会話を広げながら、利用者が一人ひとり孤立することのないよう努めている。レクリエーション以外でも楽しく同じ作業ができるよう機会を作っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当グループホームを退居し、他施設入居や入院になった場合等、本人や家族に対して納得のいくまで相談に乗り、その方にとって一番いい方法とは何かを一緒に相談し支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅の時の暮らし方や趣味・嗜好など、傾聴しながら思いを把握し支援している。意思表示の出来ない利用者には家族から話を聞いたり望んでいることはないか等伺いながら支援に努めている。	日々の支援で利用者や家族の思いを傾聴し、個別計画に目標として掲げ、思いに沿った支援に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがい 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・関係者・介護支援専門員から情報収集し、基本情報を作成して職員で共有している。本人が自宅で生活してきた大切な時間を理解できるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方ができること、できないことをしっかりと見極め無理のないよう、また負担にならないように行ってもらっている。その日の心身の状態や様子を見ながら安心して過ごせるよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や毎日の生活に関わっている職員からの意見を聞いて介護計画を作成している。利用者の生活の質の向上のために職員はミーティング等を利用し意見を出し合っている。検討結果はカンファレンスシートに記録している。	各居室担当者が抽出した課題を職員で検討し、介護計画作成としている。3か月で計画更新や利用者の心身状況変化によっては随時の見直し、計画変更を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には身体状況や生活状況・バイタル・気づきなど記録している。ミーティングを利用してその日のバイタルの確認や様子を話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くには小さな農家直営の店や、スーパーや薬局などがあり農家の店には散歩がてら買い物に行き店の方とお話を楽しんだり、スーパーへ買い物に行ったり利用者が楽しく豊かに暮らせるよう支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を受診している方や、家族や本人が希望する病院を継続して受診している方もいる。定期受診に限らず本人の状態に応じて主治医の他医療従事者の指示を仰いでいる。	利用者の状態に沿った医療機関の受診継続の支援を行っている。事業所が受診介助や処方薬を受けた場合は家族へ結果報告し、次の受診などに繋げている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護職員がいないため相談はできないが、利用者の症状や状態に応じて医療機関と情報を提供し合いながら連携を図っている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には家族や利用者の不安を軽減できるよう頻りに訪問したり、担当の医師や看護師・ソーシャルワーカーと情報交換しながら早期退院に向け治療報告を密に行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームで出来ること、出来ないことを説明した上で、利用者の家族や関係者と協議している。他職種の協力を得ながら、本人、家族が納得できる最善の方法で支援に取り組んでいる。	家族へ状況が変化した場合に出来ること出来ないことの説明を行っているが、家族が理解し易いような具体的な説明や支援に必要な設備等の説明が不十分と思われる。	家族へより具体的に設備や職員体制上出来ること、出来ないことの説明を行うためにも、職員の共通認識や方向性の話し合いが望まれます。そして、職員、家族が同じ方向に向いた利用者への支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の 実践 訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤帯に一人で初期対応や応急手当・救急車の要請などを行うことに不安があるため、救命救急講習で学んだことを改めて勉強し実践訓練を定期的に行う。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会い下消防避難訓練を年2回行っている。夜間想定と日中想定を交互に行い訓練後には職員同士で再確認し意識を高めている。災害時には地域住民や消防団に協力を依頼している。	年2回の避難訓練を実施する共に、平日頃から災害時の対応の意識を持っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に対するプライバシーの話題は他の入居者の前で話さないようにしている。また、トイレの際はドアを閉める、居室への入室時は声かけをきちんとしてから入室する等配慮している。	日々の過ごし方、居室、入浴排泄などの場面でもプライバシーを尊重した対応に努めている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で自分が見たいテレビ番組や着たい服・食べたいものなど、また、出かけたいたなどの思いを気兼ねなく職員に伝えられる関係を築き、自己決定ができるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごしていただくため、一人ひとりの生活リズムを大切にしている。その方に寄り添い、傾聴しながら希望に添えるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を染めたい・髪が伸びて…など本人からのお話があった時や職員が感じた時などは希望に添えるよう声掛けし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事では、テーブルを拭いたり、ランチョンマットを敷いてもらったり、役割分担しながら出来ることを行ってもらっている。やらされている感がないよう職員も一緒に行っている。	利用者が同じテーブル囲み、季節感のある食事メニューを和やかに、また利用者が無理のない役割を担うことで、より明るく楽しむ食事光景が見られた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう 状況を把握し 、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と水分量は介護記録に記入し状態の把握に努めている。摂取状況の悪い方は主治医に相談しながら補助食品を処方してもらい、ミキサー食やトロミ食と併用しながら提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔保持に努めている。一人では磨けない方や義歯の方など、力に応じた口腔ケアを支援している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解し尊厳のある声掛けをして支援を行っている。安心して気兼ねなく排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。	排泄の誘導、自立した排泄の見守りなどによる利用者の排泄記録表を作成し、排泄リズム把握や自立排泄への支援に努めている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックと水分量をチェックしている。食事内容やヨーグルトの提供をしているが、便秘気味の方は薬を処方していただいている。また、ホール内の歩行や腹部のマッサージなどを行い対応している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや 健康状態 に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日いつでも入浴ができる状態になっている。午前中の一番風呂を希望されたり、午後からゆっくり入りたいなど希望に応じた対応をしている。入浴時にはバイタルチェックを行い健康状態を確認し入浴している。	利用者の希望に沿った入浴回数や時間での対応をしているが、あくまでも毎日のバイタルチェックを行うなど安全な入浴支援を行っている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズムを崩さないよう、休息しているときには無理に他の利用者に合わせてすることがないように支援している。入眠前には穏やかな気持ちで安眠できるよう見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のファイルに処方薬内容や働き・注意点など添付し、また、受診結果・薬の変更など記入しミーティングを利用し職員同士で共有している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所の仕事、洗濯物たたみ、畑の野菜の収穫、草むしりなど、その方にあった力を活かせ楽しみや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。また、毎週日曜日にはカラオケを行い好きな歌を歌うことで気分転換できるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は午前・午後に分けてドライブを行い気分転換を図っている。買い物ができる方は時折職員と一緒にショッピングモールに立ち寄り買い物を楽しんで頂いている。	利用者の外出への意向や体調を確認しながら、通院のほか家族による外出の機会などを、介護計画の目標にも取り上げ支援している。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば家族の了承を得て、所持できるよう支援している。病院受診時やドライブ・買い物したい方は、自ら支払いすることで生活の質を高めることに繋がる支援をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や敬老の日などにお花やプレゼントが届いた時には、本人にお礼や生活の様子などの報告をしている。また、電話をしたい希望がある時は応じている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は温度・湿度を調整し過ごしやすい環境や空間作りをしている。トイレや居室から便臭には特に気を付け、お香やスプレーなどを使用しながら対応している。レイアウトなども考え、利用者の動きが常に観察できるようにしている。	共有スペースが空調や採光、清潔感が見られるとともに、適宜にくつろぎの場となるようなソファも置かれ心地良く利用者同士が過ごせるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを多く配置し、それぞれが座りたい場所で気合う方同士で会話を楽しんだり、一人でゆっくり過ごしたい方は居室にあるソファを利用されている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族の意見を取り入れながら、本人の大切な物や写真・趣味で作った物など配置し、居心地よく過ごせるよう心掛けている。仏壇を持ち込んでいる方もいる。	利用者の何人かは居室に仏壇を置いたり、在宅時からの使い慣れた寝具を使うなど、個々の居心地良さと家族等の面会時にはゆっくり語らせるように配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に合わせて、車椅子や歩行器を使用しながらも手すりを使い歩行訓練を行うなど自立した生活が送れるよう支援している。		